

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒 1:8）

主のわざに励みなさい

教育局長 林 正弘



「ですから、私の愛する兄弟たち。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは、自分たちの労苦が主にあって無駄でないことを知っているのですから。」（1コリント 一五・58）

この時期、各教会では、教会総会を越えて、定められた方針や計画に沿って営みが進められていることでしょう。教団としては、第21次総会、さらに第73次年会を来月に控えています。この春から新しい環境に進むために備えておられる方々もおられると思います。変化があってもなくても、私たちは前に向かって進んでいきます。そのようななかで、パウロの勧告に心を留めましょう。

私たちに求められているのは、堅く立つことです。私たちは弱く、動揺しやすいものです。主の導きに従って歩んでいると思っても、願った結果が出ないと気落ちすることがあります。チラシを配っても配っても反応がなかったり、配ったそのときはよい反応があってもふたを開けてみるとだれひとり来なかったりということがあります。これだけやったのに、やっぱり無駄だった、と次への意欲が失せてしまうこともあるかもしれません。しかし、みことばは、そうであってもやめてはいけない、結果を恐れず、しっかりと立ち続けよ、と語っています。

私たちに勧められているのは、いつも主のわざに励むことです。私たちの計画は完璧なものではなく、確実に結果が出るという保証もありません。労苦も伴い

ます。それでも、主のわざに携わり続けること、それに没頭することです。主が導いてくださったと信じることを行い、今考えられるベストを尽くすことが勧められています。もちろん、祈りが必要です。信仰だといって無茶をするのではなく、計画性を持ち知恵を用いることも大切です。経験から学び、他の人たちから学ぶこともできるでしょう。そしてどんなときにも、今は自分は主のわざを行っているとの確信を持つことができたら幸いです。

そしてこの勧告の根拠となっているのは、主への信頼です。労苦が無駄でないというのは、結果が出なかったときの言い訳でもなければ開き直りでもありません。すべて時になくなって美しく事をなされる神さまへの信頼から出てくるものです。自分が今考えられるベストだといっても、私たちの知識や判断、また能力にも限界があります。本当のベストからは程遠いものかもしれないです。ですから、私たちは自分の無知と無力を謙虚に認めた上で、主に信頼してすべてを主に結びつきたいのです。この主は、私たちを愛して贖いを成し遂げ、死に打ち勝たれた復活の主、私たちとともにおられる主です。この主にあつてすべての労苦は意味のあるものとなります。

私たちは前に向かって進んでいきます。個人としても教会としても教団としても進んで行くその歩みが、主にあつて意味のある主のわざであるようにと、心から願っています。

目次

- 主のわざに励みなさい……林 正弘……1
- 教会総会を越え、祈りのネットワーク、新年聖会……2
- 総会・年会、条例審議委員会、BTCリトリート……3
- 海外トピックス、国内局コラム、読書のひろば……4
- 長谷美代子先生追憶、燭台……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

2018年を希望をもって……

教会総会から始まる 聖霊に励まされる教会

国内教会局長 内山 勝

のか、主がどうしたいと願って
られるのかを、私たちはいつも祈
り求めて選択したいと思えます。
私たちの礼拝を、果たして、主
が喜んでおられるでしょうか。主
が喜んでくださっているのか、私
たちも嬉しい。そういう感覚をた
いせつにしたいものです。

■ 私たちは主にある共同体です
教会はイエスさまが呼び集めら
れた人々の集まりです。自分とウ
マが合う人もいれば合わない人も
ありますが、イエスさまには、意図
があり目的があつて集められたの
です。そして、主の願いは、私た
ちが一つとなることです。私たち
の心が主に向くなら、教会は必ず
一つになれるようにつくられてい
ます。教会員は、礼拝に集まって
くるただの会衆ではありません。
イエスさまにあつて、神の家族と
された人々です。お互いを大切な
人として、主あつて尊敬しましょ
う。主にあつて互いの存在を喜び
合ひましよう。そして、牧師も信
徒も互いに仕え合ひましよう。

「こうして教会は、ユダヤ、ガ
リラヤ、サマリヤの全地にわたり
築き上げられて平安を保ち、主を
恐れかしこみ、聖霊に励まされて
前進し続けたので、信者の数がふ
えて行った。」(使徒9・31)
教会総会を越え、それぞれの教
会では、主から与えられたビジョ
ンのもと、新年度の働きを開始し
ておられることでしょうか。主の恵
みが豊かでありましよう。主の恵
みを経て、教会の営みを進めるに当
たつて、心に留めておきたいこと
を記します。それは、私心がけ
ていることでもあります。

■ イエスこそ教会の主です

教会は人の集まりですから、す
ぐに、そこにいる人々のことを考
えてしまいます。役員会があり、
幹事会があります。いろいろな働
きを担う人々があつてはじめて、
教会の営みは進んでいきます。で
すから、なおさら、自覚し続けな
ければならないのが、このことで
しょう。主がどう感じておられる

■ 聖霊の励ましがあります

私たちが、主を畏れ、互いの平
和を保つていくその只中で、聖霊
が豊かに働いてくださいます。教
会を支え、いつも励ましてくださ
るのは聖霊です。教会が健全に保
たれるのは、私たちが喜んで聖霊
に従っている時です。主は、その
ような教会に、救われる魂を加え
てくださるに違いありません。

『祈りのネットワーク2018』 作成へご協力のお願ひ



久留米教会 吉村和記

「御国が来ますように」(マタイ
六・10)と私たちは祈ります。自
身が関わっている範囲に(家庭や
職場、学校、大切な教会)、また
直接関わっていない範囲にも、そ
こに御国が展開するよう祈りま
す。

そのことを切に求め、現場で働
いておられる先生がたが、今年も
数ある祈りの課題の中から三つに
絞つて本誌に出して下さいませ。
私たちがその課題に心を寄せて、
今年もみこころが天で行われるよ
うに地でも行われることを祈りま
しよう。

2018年版の発行のためにご
協力をお願い致します。

- ① 先生がたの顔写真(単身の女性
の先生方は教会員と一緒に、教会
活動でも可)、②教会外観の写真、
③ 祈りの課題三點
 - 提出期限 3月31日(土)
 - 送り先 久留米教会(吉村)
* 出来ればメールで。封書も可。
inori@inmanuel.or.jp
- メールの場合は右記のアドレスに
お願いします。

関東4教区合同新年聖会

聖会の恵みが若い世代へと

主の御前に座して 静まりがもたらす恵み

武蔵村山教会 岩上敬人

1月8日(月・成人の日)、関
東4教区合同の新年聖会が、例年
のように中目黒教会を会場に行わ
れました。今回の聖会のテーマは
「この山で、主を仰ぐ」です。一
年の初めにあたり、何よりも主
の山に登り、主に目を向け、みこ
とばに聞く一日となりました。

午前の聖会(出席者287名)
の説教者は国内教会局長・内山勝
師でした。詩篇四六篇から「静ま
りがもたらす恵み」と題して、メッ
セージを取り次がれました。希望
と不安が混在する時代にあつて、
主の前に静まることの幸いが語ら
れました。

午後の宣教会(出席者201名)
は、葛田康毅、由理宣教師、ザン
ビアから帰国巡回中の富澤香宣教
師からご挨拶がありました。葛田
宣教師の東京国際基督教会での働
きと結実に御名を崇めました。富
澤宣教師からは、宣教師館建設の
ご苦勞を伺い、日本では考えられ
ない建設事情の中、対応に当たっ

ている先生方のために祈りました。
川嶋直行師が「聖霊によって点
じられた火」と題して、出エジプ
ト記三章のモーセの燃える柴の経
験の箇所からメッセージを取り次
がれました。生まれる前から神に
選ばれていたモーセが、挫折を経
て、40年の荒野での生活の中で整
えられ、ついに燃える柴の中で召
命の声を聞いたこと、それは、モー
セにとつて過去の失敗と痛みから
の回復であり、彼の心に聖霊に
よつて火が点じられた経験だつた
ことが語られました。

聖会、宣教会ではそれぞれ、新
成人となられた兄弟方が出席され
祝福の祈りをささげました。聖会
の恵みが若い世代の方々に広が
つていくことに感謝します。また2
回の集会を通して、新しい年の心
備えとなる大切なメッセージが語
られ、出席者一同、それぞれの恵
みの座で、主の前に祈りをささげ
献身を新しくしました。



総務局から……

2018年3月3～6日 第21次総会、全国大会、 第73次年会開催 日程のご案内

総務局長 北田直人

すでに各教会宛、年会の案内申込書を発送いたしましたので、詳細はそれをご覧ください。

■総会・年会準備祈禱会
2月5日(月)

会場・OCC411会議室

▼関東4教区の牧師と神学生に
よって行われます。全国の教会
においても、総会、年会のため
にお祈りください。

●第21次総会 3月3日(土)

会場・OCC8階チャペル

総会議事 13時～20時30分

・ 条例改正審議

・ 第20次総会期報告

・ 代表選挙、代表按手式

・ 局長等選考委員会

・ 人事委員会

・ 第21次総会期方針提案

・ 新教団運営委員、常置委員会

・ 委員長、責任役員発表

●全国大会 3月4日(日)

会場・市川市文化会館

合同礼拝 10時30分

説教 新代表
聖餐式

*昼食

青年大会 14時

説教 大嶋重徳師

▼合同礼拝に合流されるか、各教会
で礼拝を行った後、年会に出
席されるかは自由です。

▼合同礼拝時に使用していただ
けるよう、藤本代表による「説教
DVD」を送付いたします。合
同礼拝以外でも用いていただ
けたいと思います。

*会場内、会場周辺には食事が
できるところがありませんので、
青年大会にも出席される方は、
JR本八幡駅周辺で召し上が
っていただくこととなります。

●第73次年会

会場・OCC8階チャペル

3月5日(月)

年会議事Ⅰ 11時～13時

*昼食

年会議事Ⅱ

14時30分～16時30分

引退女性牧師を送る会

*夕食

聖会Ⅰ 18時30分～20時

3月6日(火)

聖会Ⅱ 10時～11時

教職按手式・任命式

11時～12時

*昼食

年会終了後

転任事務 6階本部

*昼食・夕食は会場近辺で召し上
がっていただきます。

条例審議委員会から

総会に臨むために

委員長 林 正弘

条例審議委員会は、教団条例な
どの審議研究に常時当たることが
定められています。運用されてい
る条例に不具合や不明瞭な箇所が
あれば、改正案を作成します。そ
れとともに、その時々々の教団の状
況と将来への展望を踏まえて、必
要とされる制度や組織の変更のた
めの改正を進めます。

今回は「監督制を明確にしつつ、
より具体的に信徒と共に歩む教団
運営を目指す」という目的をもつ
て、教団運営委員会で検討された
方針に基づいて改正案を準備いた
しました。信徒委員を含む教団運
営委員会の構成の変更や、信徒局
の創設といった組織に関わる項目
が改正案の骨子となります。非常
に大切な内容であり、慎重に審議
を重ねて参りました。すでに改訂
素案は総会代議員と全国の牧師に
お送りし、検討していただいてお
ります。それらを加味し、最終案
がまとめられつつあります。
条例は、教団総会において代議
員の三分の二以上の議決をもって
変更することができます。3月初
めの第21次教団総会に、今回の改
正案が提出されます。主の導きの
下に正しく事が進められますよう
にお祈りください。

第5回神学院リトリート報告……

BTC冬のリトリート 年末に静まりの時を



千葉教会 池田光重

第5回目のBTC冬のリトリ
ートが12月28日から30日まで年末の
3日間にわたって開催されまし
た。昨年9月に男子寮が個室化さ
れ、本館のトイレも最新式に改築
されたなかでのリトリートでし
た。今年の食事はお正月前でした
が「おせち料理」もふるまわれ、
回を重ねるたびに豪華に、美味し
くなってきていることを実感しま
した。テーマは「主の召しに応え
て、献身、召命、職業選択」とあ
りました。その中心は「主の前
に静まるう」ということでしたの
で今回は「静まるう」という思い
から総勢30数名の方々が参加され
ました。今回は聖会第二夜の講師
として、BTC卒業生でもある、
沼津シオン・キリスト教会の主任
牧師、荻野倍弘先生をお迎えして
メッセージを語っていただきました。
軽妙な語り口で、飾ることな
く、親しみ易くしつかりと心に届
くメッセージでした。参加された



お一人お一人に主の召しが伝えら
れたことと思います。
また体験授業は河村院長による
「きよめ」について、グループディ
スカッションを通して学ばせてい
ただきました。まさに「体験」学
習でしたので、深いところまでは
行きつけませんでしたが「きよめ」
について再度自分の中で機能して
いるかどうか探る機会でした。
また、今回の「目玉」は「講壇
インタビュー」で、葛田聡毅先生
の巧みなリードで8名の先生方の
古のBTCでの学び、訓練の様
子を語っていただきました。現在
の視点からすれば「笑い話」のよ
うな話が次々と披露され、現在の
BTCが神学生一人一人をどれほ
ど大事にしているかが明確に知ら
された思いでした。
参加者の中で目の不自由な方が
3名参加されましたが、ハンディ
を感じさせない、元気はつらつと
した方々で、励まされました。

国内教会局から

新約の諸教会再訪
開かれた門としての教会

新約時代の諸教会を訪れる旅に出るときから、最後に訪問する教会はフィラデルフィヤ教会と決めていました。黙示録7つの教会の中で唯一叱責を受けなかった教会として知られていますが、それ以上にこの教会



が「門」になぞらえられていることが意義深い。金沢駅前には巨大な鼓門が開かれていて来訪者を迎えます。フィラデルフィヤ教会の門も大きく開かれていますが決して無防備ではない。サタンの人衆は入れず、世界の規模の試練からも守られる。その中で聖徒たちは守られ、彼らもまた福音を生き通すのです。開かれた門を通

して真理を求めようとする者が入ることができよう、聖徒たちが神の都に入ること、かつて大地震で崩壊した町の只中に建てられたこの教会は、この世界と神の国を結ぶ門なのです。私たちの教会もまた各々の町で、開かれた門の役割を担い、鍵を持つ主を仰ぎましょう。

(鳶田崇志)

■「聖書同盟」が英女王を迎え150周年記念礼拝
英国で始まった超教派の国際伝道団体「聖書同盟」(SU)は12月6日、創立150周年記念礼拝を、エリザベス女王を迎え行ったと国内通信社「PA」が報じた。
ロンドン北部イズリントンにある英国国教会セント・メアリー教会で行われた記念礼拝では、ダラム教区のポール・バトラー主教が説教。女王は、現地教会のサイモン・ハーベイ牧師、「聖書同盟」英国ディレクターのティム・ヘイスティスミス牧師、クラシック歌手のキャサリン・ジェンキンスなど数百人と共に1時間に及ぶ礼拝に参加。女優フローラ・ベンジャミンが祈りをささげ、小学校聖歌隊による特別賛美が披露された。

25日もクリスマスの祝日に
正教会が強いウクライナでは、1月7日がクリスマスの祝日だったが、ロシアと同じく、ヨーロッパとの接近を図る中、今年から初めてカトリックの伝統に



海外トピックス

ストを伝えたことから始まった。運動は現在、日本など140カ国以上に広がっている。

■正教会が強いウクライナで12月

ならって12月25日もクリスマスの祝日となり、首都キエフの広場は大勢の人でにぎわった。ウクライナ政府は、ロシアとの対立を背景にEU(ヨーロッパ連合)への加盟を目指すなど、ヨーロッパとの接近を図っている。

■中国で「文化侵略」めぐりクリスマス行事禁止の動き
中国・人民日報の英語版によると、湖南省衡陽市公安局は14日付の通知で、党員や公務員に「西洋の祝祭の蔓延に抵抗すること」を呼び掛け、家族も含めクリスマス

の祝賀行事に参加しないよう求めた。通知は、クリスマス飾りの雪の模造品を作って販売した者に対し高額の罰金を科す方針も示した。「クリスマス禁止」の指示は大学などでも出ているという。共産党は党員が信仰を持つことを認めていない。特にキリスト教は西側の価値観を代表するものとして警戒を強めている。(平瀬聡樹)

読書の

ひろば



新装再版の「カテキズム」
信仰教理問答

受洗の準備のために
ご活用ください。

イムマヌエル出版事業部
定価(550円+税)

長らく絶版になっていました少年文庫の『カテキズム』が、装いも新たに再版されることとなりました。

もともと少年文庫の中で、教会学校の生徒が信仰の基礎を学ぶために書かれたものでしたが、「教え方がよくわからない」ということで、教会学校誌(現「つばさ」誌)に、教会学校教師の理解を深める目的で、3年にわたって「解説」が連載されました。

その後、それらの記事をまとめて内容を充実させ、「信仰のカルシウム」というタイトルで書籍に

しました。教団外でも広く用いられたようです。けれども「カテキズム」単体での再版の希望も多く、「信仰教理問答」という形で発行されることになりました。

引用聖句はすべて『聖書 新改訳2017』に置き換えられています。また各項目に『信仰のカルシウム』の参照ページが書かれています。併せて学ばれることをお勧めします。

教団外での使用も考え、イムマヌエル教団の説明は巻末に移しました。またいくつかの教会学校への言及は割愛しましたので、成人の方々にお使いいただけます。「カテキズム」とは、簡単に言う

うと信仰の基本的な理解のため、またそれを覚えるために作られた問答形式で、洗礼を受ける前に学び、教派によっては洗礼式の前に、信仰の確認をすることにも用いられているものです。

本文は78ページ、内容は、「神」、「人間」、「救い主イエス・キリスト」、「人間の救い」、「聖霊なる神」、「全き潔め」、「聖書」、「教会」、「世界の終末(終わり)」、の9章と、最後の10章に「イムマヌエル教会とは」となっています。定価は550円+税となっています。

信仰の体系的な理解の基礎として、教会学校はもとより、成人クラスなどでも用いて頂けるでしょう。どなたにもぜひ一度は目を通していただき、また手元に置いて

(鳶田直毅)



追憶

故長谷美代子先生

2017年12月29日ご召天(享年73歳)



長谷美代子先生は、1944年11月東京にお生まれになりました。高校時代、丸ノ内中央教会に導かれ、高校3年の時、葛田二雄先生より洗礼を受けられました。多くの先生方との出会いにより、伝道者になりたいとの希望が与えられ、大学卒業後、聖宣神学院第20期生として入学されました。在学中には、結核による闘病など試験を通りましたが、主との交わりや同窓の先生方との交わりに支えられ、乗り越えられました。卒業後は、丸ノ内教会、鵜沢教会、豊田教会(開拓)、鶴ヶ島教会(開拓)、大津教会、高槻教会の各教会のご奉仕の後、1992年に安食教会開拓の任命を受け、以来25年間、地道な福音宣教に取り組みました。一昨年には祈りの答えとして、新会堂が与えられました。去る2017年7月に脳腫瘍が見つかり、8月に8時間以上にわたる摘出手術の後、教会生活を続けながら通院、治療に専念されました。11月には長く祈られたご親戚の姉妹の洗礼式、そしてお兄様が天に召され、ご自身で葬儀を執り行われました。その後、教会近隣の病院に再入院、ご親族、安食教会の兄弟方、多くの先生方のお祈り、お見舞い、助け、見守りを受け、12月29日午前8時24分、平安裡に主のみもとに召されました。先生はその伝道生涯、教会の兄弟はもちろん、同労の器方、近隣の方々にも労をいとわずに尽くされました。病床で与えられた聖句の一つは、「まことに主は、あなたのために、御使いたちに命じて、すべての道で、あなたを守るようにされる」(詩篇九一・11)。先生は闘病中ほとんど痛みがなく天に召されました。先生と安食教会に与えられた今年の年頭聖句は、第一ペテロ一・25でした。「しかし、主のことばは、とこしえに変わることはない。」(島田貴子)

追憶のことば
長谷先生は高校三年の時にB・Aで救いに与り、丸ノ内教会に導かれ、葛田二雄初代総理の下に聖宣神学院の訓練を受けました。これらを通して救霊と世界宣教と言う二本の柱が形作られました。特に海外宣教への具体的なご奉仕に力を入れ、宣教師の送り迎え、宣教地訪問等活躍しました。先生はどこに遣わされても魂を救い育て、教会を建て上げました。最後のお見舞いをして頂いた時、一人の若者が病室に入ってきた。「先生、僕を覚えていますか。僕は長谷先生に救われました。」と語りかけました。先生はほとんど反応がでない状態でしたが、頷いているのが分かりました。先生の魂への熱い思いが端無くも表わされた瞬間でした。

先生の救霊の鍵はその品性にあります。それは真珠の輝きです。心の痛みと傷は主キリストの愛によって包まれ癒され、真珠層が出来上って行きました。その清い輝きが人々を引き付け、主へと導いたのです。その輝きは永遠です。天国での再会と語らいを楽しみにしつつ追憶の言葉と致します。

追憶のことば

救霊への情熱を持ち続けた先生

新浜教会 竿代皓子

昨年2017年は「宗教改革500年」として記憶される年でした。カトリック教会の絶対的支配の時代に、「聖書に書かれていないことを認めるわけにはいかな。私はここに立っている。それ以上のことはできない。神よ、助けたまえ」と、福音信仰を宣言したルターを思うと、まさに「神の時」と「神の人」の奇しい合致をみる事ができます。彼の踏み出した一歩は、彼の自覚をはるかに越えて世界史を変えて行き、五百年後の今日の世界を構成することになりました。■それでは、今から百年前、つまり「宗教改革400年記念の年」はどのような時代だったのでしょうか。1914年に勃発した第一次世界大戦のただ中でした。戦争は、これまでの局地的なものから世界を巻き込んで、高度に技術化された大量殺戮兵器(飛行機・潜水艦・毒ガスなど)が使用されるようになりました。この年、ロシア革命が勃発しています。日本は大正6年でした。この10月31日、まさに宗教改革記念四百年のその日に、中田重治を監督とする「東洋宣教会ホーリネス教会」が設立されました。そして3か月後の明くる1月には、内村鑑三・木村清松・平出慶一・中田重治らによる再臨運動が展開して行きます。その二年後の1919年にはホーリネス大正の中期リバイバルが起こりました。秋山由五郎・柘植不知人・小原十三司らが淀橋教会でリバイバルの切なる祈りを捧げたのでした。因みに葛田二雄略年譜を見ると、1917年に中学入学、シンガポール・メソジスト監督教会で受洗(13歳)と記してあります。■それでは今から百年後の人たち、つまり宗教改革600年を記念する人たちは、今の時代をどのように評価するのでしょうか。新改訳2017が刊行されたことは記録されて然るべき出来事でしょう。その一方でエキユメニカルの動きがカトリック・プロテスタントからも顕著になった時代でもあります。そして神なき人類はその科学万能主義の下に破滅の道を歩みつつあります。(IIテモテ三・1)主の現れとその御国を思う時、私たちは、果たして百年後の宗教改革記念日を迎える事ができるのでしょうか(IIテモテ四・2)。アーメン。主イエスよ、来てください。(國光勝美)



これからの百年は

巻頭言

見えない所にある協労者



世界宣教局 薦田 敬子

「あなたがたも祈りによって、私たちが助けて協力してくださるでしょう。それは、多くの人々の祈りにより私たちに与えられた恵みについて、多くの人々が感謝をささげるようになるためです。」



広げた翼

Immanuel His Wings

Department of World Missions

http://www.immanuel.or.jp/world/

世界宣教局

昨年未、尊い器を天にお送りしました。長谷美代子先生のことを思います時に、先生の宣教地と宣教師への思いを教えられます。国外局員として労してくださいました年月、見えない必要をそつと埋めるように、多くの陰の奉仕を担ってくださいました。我孫子にミッシン・ハウスが与えられた時も、安食教会を中心とした姉妹方と共に、内側の整えや清掃のために何度も足を運んでくださり、帰国される宣教師方の受け入れの備えをしてくださいました。成田空港にも可能な限り出向いてくださり、荷物の多い時は、お兄様も車を動かして下さって、2台で宣教師を迎えて下さったこともありました。局員の任命から外れた

後も、しばしば宣教師の出入りの際に便名と時間を教えてください。とお問い合わせをいただきます。宣教地の緊急の課題にも、関心を持って問い合わせてくださいました。これは一面にすぎません。宣教師の働きを考える時に、私たちは最前線の目に見える動きにばかり心を向けがちになります。しかし、見えないところに、ただ主を愛するゆえの無償の真実な奉仕の積み重ねがあり、そのような方々が主に用いられて、常に継続し、拡大し、前進している宣教の働きというものがあつたのです。密かな部屋で捧げられている祈り、主の促しにこたえて捧げられる財、時間、機会。天国に行くまで人々の目には触れないかもしれない多くの働き、主にある真実さを、主は価値高く覚えていてくださるでしょう。そして、きつと全国の教会の中に、黙って主と共に重荷を負ってくださる多くの兄弟方がおられ、この年、見えないところ、見えないところで宣教師と手を携えて労苦し、祈ってくださることを信じ、感謝しています。メディアによって報じられる世界情勢には、緊張を憶えます。いつ、どのようなことが起きるか、誰にも確かな予想はできません。しかし、主が与えてくださる「今」を、数えきれない多くの主にある兄弟方と共に、御意を求めて心一杯生かしていただきたく願います。



ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子*2018年1月1日

12月は雨季らしい月でした。良い雨が降っており、作物がよく育っています。12月は特に新しく与えられた車の登録、運転免許更新などのために外出することが多かったです。一度街に登録に行き寄せる必要のある書類の不足があつたり、他機関からの重要書類の記載事項の違いがあり、その書類を送り直すことがあつたりしましたが、年を越える前に全ての登録手続きを終えて、車を使用させていたでいています。以前使用していた車の売却では買い手が支払い始めていますが、まだ半分の額が未払いのため、無事に払い終わられるようにお祈りください(支払いが終わるまで渡さない契約としています)。今回宣教車として与えられた車はトヨタのハイラックスで多くの荷物を積むことができます、大きな助けとなっています。先日ウエスレアン教会からPW C教会のクリニックに薬を買った



めのお金が献げられ、購入した薬を町に取りに行く働きもさせていただきました。月初めはお産で忙しく過ぎました。事故なく無事にまもられたことは感謝です。クリスマス礼拝はジェンボの教会でコミュニティーの方々とともにイエスキリストの誕生を祝いました。世の中とは違う意味で、本当のクリスマスを祝うことの幸いが語られました。礼拝後にプレゼントの時がもたれました。感謝なことに、いくつものIGMの教会から古着の捧げものが届けられており、教会の方たちにシェアすることができ、感謝でした。電気については、トラブルが起きました。以前にも起きた事ですが、コミュニティーの電気代滞納によりまた電気が止められました。今回は1日半でなく1週間止められ、全コミュニティーは電気がないクリスマスが過ぎました。宣教師館は発電機が与えられており、電気がない中で、発電機を時おり使用することによって冷蔵庫を冷やすことができました。今は請求額を支払うことができ、電気が復旧しています。■



ZAMBIA

ザンビア

富澤 香*2018年1月5日

9月から11月までに8教会で巡回をさせて頂きました。12月と1月は巡回がないので、宣教師館プロジェクトのために少しでも助けにしたいと働きはじめました。

2月の沖縄、板橋教会、安食教会をもって巡回が終了する予定です。帰国して、安食教会に近いこともあり、できる限り長谷先生をお見舞いしました。クリスマス礼拝の時には外出の許可が下りず病院にお一人でしたので、私が一緒に送らせていただきました。島田先生はじめ教会員の方々が一致協力して様々な形でお世話している姿、主にあるその愛に麗しさを見せられました。前夜式で先生の宝は教会員であることが語られ、本当にそうであること、そしてその宝がしまっておくものでなく主にあつて働き、神様の豊かな栄光を表していることを目の当たりに見させて頂き、感謝でいっぱいです。4月16日に梅田登志枝局長の同伴でケニヤに寄ってから、21日



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2018年1月8日

にザンビアに着く予定です。新しい訪問緩和ケアと、残る半分の宣教師館プロジェクトに関わりながら、締めくくりに準備に入っていくと思えます。お祈りに覚えて頂けましたら感謝です。

「あなたがたが、私たちの奉仕の結果としてのキリストの手紙であることは明らかです。それは、墨によってではなく生ける神の御霊によって、石の板ではなく人の心の板に書き記されたものです。」(IIコリント三:3)

学校のプロモーションのために、ポリナオの教会を訪問しました。この教会は11月に伝道所から教会として正式に承認され、記念式典が開かれた教会です。8月の訪問団のメンバーが訪問した教会でもあります。私たちがこの教会を初めて訪問したのは10年前でしたが、その時はマンゴの木の下で十数名の方々と礼拝を捧げていました。それが今ではメンバーが増



え、土地と会堂が与えられ、教会として承認されるまでに成長しています。この教会だけでなく、ウエスレアン教会全体で力を入れていく働きが、青年たちへのアプローチです。この日も、たくさんの方々が礼拝に集い賛美をしてくださいました。毎週、金曜日の夜には青年の集会があります。このような素晴らしい教会を建て上げた主任牧師マーク先生御夫妻は、もう既に次の教会開拓を検討しています。恭子が学校の紹介を、そして常喜が説教をして今回のプロモーションを終えました。今年度の学期を恵みの内に終えることができました。今学期は常喜が2科目を教えました。4年生は二期からインターンシップで地域教会に遣わされます。毎年のようにこの実習期間中に問題が起こし、卒業を引き延ばされる学生が出てきますので、彼らがすべての誘惑から守られ、無事に卒業できますようにお祈りください。



CAMBODIA

カンボジア

蔦田緑乃*2018年1月2日

お祈り頂きました11月21日〜12月21日の宣教旅行の報告を致します。前回、6月〜7月の「勝利から勝利」とまさに神様の御手による御業が鮮やかに表された一か月とは真逆と言える、課題から課題の押し寄せる戦いで、主が御顔を隠されたのかと不信仰な思いと暗い心との戦いの4週間でした。しかし帰国して最初の祈禱会で開かれた1サムエル二九章のダビデの苦境の解決の記事から、この一か月間の戦いに見る主の働きを領かせて頂きました。特に大きな課題はヴァンディゴ夫妻が背負わされた十字架の重さです。治療と訓練の諸費用が予想以上の負担であり、それに加えて現在の住居のパートが契約期限をこえ売家とされたため、引越を余儀なく迫られています。一人の買い手候補者が見に来て「もし私が買う決断したら、そのままあなた方に住んで貰いたい」とのありがたいコメントに主の御名を崇めました。が、

私が帰るまで何の音沙汰もなく、加えて治安問題にも危惧を呈してくる状況で、暗いお報せが山程という状況でありました。しかし、暗き中にも光がありました。香港JCFの宣教隊7名との合流が許され、有名な大湖に水上生活する漁師の村に一人の漁師の救いを通して自立で家の教会が立ちあがっておりまして。この漁師はシエムリアップ地区の教会のアロン牧師からイエス様の嵐を鎮められた話を聞いた帰り道、湖上で嵐に遭い「イエス様嵐を鎮めて下さい」とボートの中で祈ったところ、嵐が静まるという経験をして信仰に入り、その浮島の自分の家を家の教会として献げ、自分たちのお金と少額ながらの献金でボロボロの家を改造し、教会が自立の教会として成長してまいりました。また、アロン牧師が数年前にトタン屋根をはぎ合わせて始めたホープスクールは最初は30人程の子供でしたが今回、300人の小学生から高校生までの生徒が集められ熱心に勉強しておりました。将来彼らは大学生として都会に出てくるのでグレッジ宣教師やヴァンディ牧師のケアのもと、都会での罪や汚れから守られるべく教会に繋がることを期待しております。建設中の本部と宣教師館の場所を視察しましたがヴァンディ師曰く「凄く速さで工事が進んでいる」と驚いておりました。国家の治安が守られ、無事に献堂式を迎えられるようお祈りください。



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2018年1月5日

この年も、多くのクリスマス・新年のカードを心より感謝申し上げます。カードに記されていることばを繰り返しながら、背後のお祈りの力強さを覚え、大いに励ましを受けました。台中教会では、昨年の秋頃より教会のお祈りが少しずつ変化し、祈りの準備範囲が広がりました。とりなしの祈りが大きく変わってきました。

台中では今年24日の午後「教会クリスマス」という形で、手作りのクリスマスを守りました。今回は、クリスマスキャロル3曲を、3つのチームに分けて、教会メンバー全員にベルの分担を割り振りました。けれども、なかなか足並みが揃わず、毎週、練習を進めながら、いつも本番とは違う人が代行の形で穴を埋め、入れ替わり立ち代りの状況でした。あまりにもメンバーが揃わないチームがあり、困惑、当惑しながらの練習が続き、果てには、本番はどうなるのだろうか、みんな揃うのだろうかというヤキモキした中、前日の直前練習で始めて顔をあわせたという状況でした。けれども、私共の心配とは裏腹に、メンバーが楽しんで練習し、練習を重ねることに、きれいな、清らかな音色に変わり、クリスマスキャロルが美しく奏でられるようになりました。本番を迎え、満場の会堂で、誇らしげに、懸命に演奏される姿とその響きに、主の御名を崇めました。集会には、台中在住の邦人家庭をはじめ、日本語を学ぶ台湾の学生、愛児姉方の日本語クラスの生徒、愛児姉方のご家族や友人、知人が大勢集われ、開会十分頃までには、あっという間に座席が埋まり、裏方として奉仕された教会メンバーはもちろんのこと、後から来た方々も通路や階段に座り、身動きの取れないほどの盛況でした。集会の後で、「クリスマスにこんな人が来るとは思ってもみ



ませんでした。」「自分が想定していた集会とは違い、あまりにも多くの人でびっくりしました。」これがクリスマス・良きおとずれなのです。」との最近、教会に集われ、新たに奉仕に加わって下さった愛児姉方の感想に、新鮮な思いがしました。台湾では、暦の上では、新年が明けましたが、旧正月(今年は、2月15〜20日)までは、年末の装いです。大掃除や学年末テスト、職場の決算など、これからが慌しい年の締め括りです。教会では、クリスマスの集会に来てくださった方々に歓迎の葉書を出し、愛児姉方にフォロアップの声掛けをお願いし、新しい年へと踏み出そうとしています。主の恵みのおかげ、救いのおかげです。一人でも多くのかたが続けて、二回、三回と教会に足を運ぶことができますよう、続けてお祈りとご支援を宜しくお願いいたします。

- 会計報告12月分
宣教献金 二、七、一八、六、四、九、九
月平均 一、九、七、四、二、二、七、円
- お祈りの課題
香港(鹿島)
◆新しい年与えられたお言葉に活かされますように
- ◆廣州(番禺・祈福)での働きのために、今年も良い出会いが与えられますように
- ◆教会総会後の歩みのために(ピリピ四章19節)
- ◆今年の旧正月の営みのため
- ◆引き続き日本と中国の関係が良好でありますように
- ◆カンボジア(鳥田緑乃)
- ◆建設中のKCC本部と宣教師館の無事完成と、支払い完了までの必要一切が満了のため
- ◆アロン牧師の奥様の体にできた腫瘍の癒し、ダビデ君のセラピストによる訓練のため
- ◆2月前にアパートの移動の解決が見られ、落ち着いた伝道活動に入れるよう、私の足の痺れの快復のため
- ◆ザンビア(富澤)
- ◆日本の寒さに耐えられるように
- ◆ザンビア(根廻)
- ◆クリニックでの働き
- ◆宣教師が与えられた感謝
- ◆ジエンボでの生活のために
- ◆ケニア(鳥田就子)
- ◆今の所全国的な混乱からは守られて感謝
- ◆飢饉の影響のひどい地域の方々

- ◆のため、またAGC支援計画の必要が満たされて福音のために用いられるように
- ◆テヌエック病院の働き人(ルカ10章2節) 特に麻酔科の必要が満たされるように
- ◆フィリピン(豊田)
- ◆新校長アレックス先生のリーダーシップのために。学生たちがサタンからの誘惑、攻撃から守られ、学びと訓練に励むことができるように
- ◆地域教会でインターンシップ中の4年生のために。あらゆる誘惑から守られ、教会を建て上げる喜びを体験できるように
- ◆事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように。子どもたちの学びのために。義実のビザ取得のため
- 台湾(平瀬)
- ◆クリスマス集会に来会された方々を続けてお迎えますように
- ◆台湾では、旧正月に向かう年末の締め括りの時です。すべてにみ守りがあるように
- ◆私たち宣教師家族の健康と生活のみ守りのため。子どもたちの学びと将来のため
- ◆緊迫した、複雑な国際情勢・社会情勢の中、台湾の政治や経済治安が安定するように
- ◆東京国際教会(鳥田康毅・由理)
- ◆8年間の東京国際基督教会における華人宣教が守られた感謝
- ◆今後の導き、歩みのため

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

視点の転換

院長 ● 河村 從彦

「悔い改めて福音を」

(マルコ・15)

福音書を読むときに大切なのは、神学に落とし込む前に、イエスさまがその場面で何を考えておられたのかに敏感であることです。

「悔い改め」。使い慣れていることばです。どうしても「悔いる」イメージが先行します。しかし、もともとのことばには、視点を転換するという意味があります。視点の転換とは、自分の立ち位置を少し動かしてみることです。

イエスさまがおっしゃりたかったことは、おそらくこういうこと

です。「神の国はすぐここにあるので、固定化した古い見方ではなく、少し立ち位置を変えてみよう。そうしたら、新しい原理で動いている恵みの世界を展望できる」。イエスさまを信じたとき、わたしたちは罪を悔いました。しかし実は、神さまの前にこのままではダメと思って、自分について視点を転換したのです。

よく信仰が成長するといいますが、できるようなイメージがありますが、そうではなく、いろいろな点で見方が豊かにされて行くことです。人間のわざから神さまにやっていただく意識へ、自分を成



BTC リトリート聖会第二夜 荻野倍弘先生のメッセージ

長させようとする緊張から恵みに活かされる安息へ、人を指導しようとする性から人に仕えたいと願う思いへ等々、視点の転換が起きます。自分を律して行く世界ではなく、恵みによる自由な世界です。頑張れない人がありのまま頼って行く、情けないからこそ頼って行く、しかしだれにも居場所がある大丈夫な世界です。

信仰も頑張らなければという思いがあったら、フツと視点を転換してみる。そうすると、イエスさまは、自分をそんなに責めてはおられなかった。むしろ暖かく見守っていてくださったことに気づく。そのような体験を何度も何度も重ねながら、イエスさまの自由さを味わって行くのが信仰の成長なのでしょう。ここに、信徒の方にお伝えしたいと思う暖かい奉仕の備えがあるような気がします。

神学エッセー

神学の用語について③

「愛」が内包する「痛み・苦しみ」



小川宣嗣

し、あふれ行く愛」と呼びました。しかしその神の自発的、意志的な愛には、最愛の御子を死に引き渡される十字架の場面と関連して、計り知れない痛み・苦悩が内包されています。その愛して下さる神の痛みへの気づきや驚きがあるかどうかを問われます。

聖書は、神の御心の奥深くにある痛みを、「わたしのはらわたは、彼のためにわななき、わたしは彼をあわれまれますにはいられない」(エレミヤ三一・20)と伝えます。

「わななき」と訳されたことばは、本来の意味は「水や海が騒ぎ立ち鳴り響くこと」、人に適用されると「思い乱れる」「呻く」、神に使われるとはらわたが「わななき」「胸が高鳴り」(新共同訳)「痛む」(文語訳)となるそうです。

神の愛は、神のはらわた(深奥)に激しい痛みを伴わせる愛です。神の愛を知りながら反逆し続ける私たちに対して、それでもなおどこまでも、愛の関係をご自身の方から築こうとされる在り方は、人格的な痛みが伴うことが必然です。その神の痛みが、御子イエスの十字架という形で現れます。

究極的な痛み・苦悩を内包する神の愛によって愛されている事実が気づかされ、信仰生涯における様々な現実的痛みと苦悩の中にあってなお深い部分で感謝できる恵みと幸いを知り、「本当の喜び」と真の苦しみは繋がりがあふれることを受け止めながら、それを証しできる者とされたいと願います。

教理のクラスでは、神のご性質について学びます。テキストにある神の属性の項目は、被造物としての人間と区別される絶対的なものとしての全能性、全知性、遍在性、永遠性、そして人間にも分け与えられる道徳的性質としての聖愛、義、あわれみ、真実などです。その中で、神の愛のご性質については、ごく自然に理解し体験している面がありますが、少しでも掘り下げた理解を願いながら、神が愛される愛と痛みとの関係について考える時を持っています。

罪を犯して背く世(私たち)を愛された神は、ご自身の御子をさえ惜しまずに与えて救いの道を開かれました。神の愛はよく「アガペー」の愛、「無代価で与え続ける愛」、「のゆえに愛する愛」ではなく「もにかかわらずに愛する愛」等と表現されます。相手の質や価値に根拠や理由を求める愛ではなく、神ご自身の方から自発的に注ぎ出される愛、それをルターは「泉のように吹き出

◆神学院の学びで

神の子として生きる人生

短期コース 伊藤安司

「神の子として生きる」とはど

ういうことでしょうか。それは、

「幸せに生きあう」ということです。

私のクリスチャンとして生きる

基礎となつている御言葉は、『あ

なたは心を尽くし、いのちを尽く

し、力を尽くし、知性を尽くして、

あなたの神、主を愛しなさい。』

また『あなたの隣人を自分自身の

ように愛しなさい』です。しか

しこの御言葉は、「愛そう」と頑

張る私に「できない現実」を突き

つけてきます。「自分の力じゃな

く、主にしていたらこう」それさ

は心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、子

だから私は、父なる神様が私を愛

するようにならず私自身を愛する

ことができる。「幸せに生きあう」

とは、神の子として愛されてい

ることを喜び、自分という存在を

愛し、尊び、同じように他の人に

もその価値を見出していくことで

あると思います。

BTCの学びがあったからこそ、

私はより自分らしくなり、自分ら

しく考え、神の子として生きるこ

との幸せを実感しています。こん

な素敵なBTCが築き上げられた

◆神学院の学びで

いつも相應しい時に

短期コース 高木 暁子

「BTCでの学び」を通して教

えられた事は、沢山ありますが、

もし三点にまとめるとすれば、

一、ずっと生涯学び続けること。



神学院祈り会 第50回記念感謝のとき

一、唯、主にお委ねすること。

一、主の恩恵を分かち合うこと。

が、揚げられます。この二年半の

学びの一つ一つ、先生方、神学生の方々の日々の生活を振り返ると感謝の涙が溢れてまいります。その日々を支えてくれた家族、出身教会をはじめとして、実習で行かせて頂いた教会の数々、名前を上げてお祈り下さる諸教会の先生方、皆様。心より感謝致します。「しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、驚のように翼を広がせて上ることが出来る。走っても力衰えず、歩いても疲れない」(イザヤ四〇・31)。今年の初めに、私の心に響いてきた聖言です。私は、その時、とても疲れを覚え、新年を迎え、いざ卒業という言葉が耳に入るようになり、大きな不安が襲ってきたことです。が、この聖言のように「しかし」と語って下さる主、今までも、これから困難と感ずる凡てのことを通して、最善に導いて下さる主にお任

せしていく生涯であることを改めて受け止める事ができて感謝しております。

「神のなさることは、すべて時になつて美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行うみわざの始まりから終わりまでを見極めることができない」(伝道者の書二・11)。またどうして今になって直接献身なのでしようとの私の当惑にも主は、明確に「それが、相應しい時」なのだと言われ、聖言によって励まされ、主と共に歩む幸いを心から感謝しております。

遣わされる教会において生き生きと主の恵みの管となれますようお祈りに覚えて頂ければ幸いです。

拡大メンテナンス委員会

BTCキャンパス 今後の展望



千葉教会 池田光重

現在の西八朔のキャンパスは1968年、浦和から移転して今年で50年目を迎えました。この間多くの献身者が牧師・宣教師としてこのキャンパスから単立してきました。また、教団年会の会場としても用いられておりましたが、様々な諸事情により年会は外部の会場を利用することになりました。

そのため、年会の会場や開催時期が毎回変わることから参加者からの不評が時折寄せられていました。現在神学院では11名の神学生が学んでいます。昨年、男子寮の個室化とトイレの改修工事を実施し、一昨年は本館教室の床工事を実施しました。現在は「学び舎」としての環境は整いつつある状況と思われます。

神学院のロケーションは、東名高速のインターから近く、最寄りの駅からも利便性が良く、キャンパスを整備することで様々な用途に利用可能と考えられます。また隣には「スーパ―銭湯」が深夜まで営業しています。首都圏の各教会でのキャンブ、修養会、教区ごとの聖会、さらには年会会場としての利用も考えられます。

2018年度は老朽化の著しいオルガン棟と旧家族寮を解体し、駐車場として整備する計画であり、更に、本館の屋根の改修工事と本館建屋一部の耐震対策をも施す予定です。

また旧女子寮については、空き家状態が長いことから内装は悲惨な状態であり、これからのように用いていくのか、大きな検討課題の一つと考えます。

今後、BTCキャンパスを神学生への学びと訓練の場としての環境を整えつつ、多様な用途にふさわしく整備することでキャンパス利用拡大が期待でき、献身者の興起にも期待できます。多くの祈りが求められていることを覚えます。

私の神学生時代
人を誘う
8期生●一木訓治



人の間を歩いていました。ふと見ると岩井兄は立ち止って若い人とか話しています。私はあせりました。目を向けると、二人が歩き出すのが見えました。時計を見ると集会が始まる時間が迫っています。私の足は、何もできないまま集会に向いていました。賛美歌が始っていて、二人が並んで座っているのが見えました。

神学院での生活が始まった時、岩井従男兄が徳島県の鴨島教会から来ておられました。この方は年齢的にも経済的にも信仰的にも違っていて、特別な事情で一年間の学びをと来ておられました。多くのことを教えてくれた方でした。当時の丸ノ内中央教会では、時折、志道者会が開かれていました。信徒の方が新しい方々を誘って集う伝道会や洗礼準備会のような集いで、三晩、続けて開かれました。志道者会の最初の時でした。会場を準備をして、始まるまで少し時間がありませんでした。

岩井兄に「人を誘って来よう」と言われました。そう言うともう歩き出してしまいました。「みなさんが新しい方を誘って来られるのに、私たちが手ぶらでは！」。岩井兄の気持ちでした。教会の交通協会ビルの前にはそごう百貨店、その向こうは有楽町の駅です。人が溢れています。私は「はい」と付いて行きました。人々の方に向いました。しかし、誰に、何と言って、誘ったらいのか？ うろろうろ、あちこちと、

次の日、心を備えていました。「誘って来よう」。私は領いて、外に出ました。「今晚は……」、「聖書のお話が……」。しかし、人々は振り向きもせず、素通りです。岩井兄はまた、一人を誘って、教会へ向っています。時間が来ました。戻る足の重さ！ 人を誘うこともできないはがゆさ。「みなさんが人を誘って来られるのに、私たちが手ぶらでは」。そう感じる感覚、感じて何もできない。伝道者の出発点の問題！ もう一晩ありました。何とかと祈りながら、人ごみに出ました。誰に声をかけようか。歩いていると、ある建物の前で掲示板を見ている青年がいました。「今晚は」。振り向いたので「聖書の講演会に行くんですが、一緒に行きませんか」。早口で言いました。黙っていたので「すぐそこです」。言いながら歩き始めました。そうして振り向くと、付いて来てくれました。また。「ここです」。並んで座りました。その時の気持、振り向いた岩井兄の顔。忘れることができません。

同窓生の近況

40期生

福岡教会●國重由紀子



神学院卒業後、神学院と神学院教会に7年、その後、福岡教会にご任命を頂いて、18年になります。神学生から始まって、現在に至るまで、涙あり、笑いありの学びとご奉仕でしたが、懐かしく、全てが主の愛の御手の中にあつた事をひしひしと感じております。お祈りとご指導をくださった先生方と兄弟姉妹方にも感謝しております。高校2年生の息子と小学4年生の娘も守られています。高校2年生の息子は自閉症のため、近くの特別支援学校に通学していますが、明るい息子にいつも元気をもらっています。同じ苦しみや痛みを持つお母様方との出会いも大きな恵みです。この方々に福音を知って頂きたいと願いながらの毎日です。実際のところは、お母様方に教えられる事ばかりです。このお母様方を始め、福岡の愛する方々に主の御愛と真の救いをお届けしたい。その一心で更にご奉仕に当たらせて頂きたいと願っております。「なおも救い出してくださるという望みを、私たちはこの神に置いているのです。」(Ⅱコリント一・10)

弱さを誇れる信仰に

女子寮監 河村みち

「もしどうしても誇る必要があるなら、私は自分の弱さを誇ります。」(Ⅱコリント一二・5)

自分の弱さを軸にして生きる生き方になっていくまでに、多くの時間が必要でした。それまでの自分は、「弱さは鍛え、克服して強めていくもの」と考えていたところがありませんでした。弱さを認めると惨めに感じてしまうので強がって生きてきたといった方が良いのかもしれませんが。弱さを受け止めざるを得なくなつて初めて、強がっていた自分に気づき、そのことが周囲を疲れさせたり、傷つけていたかもしれないと思うに至りました。弱さは傲慢になりやすい人間を謙虚にしてくれるもの。ありのままの自分を受け入れ、同じように周囲の方々のありのまま受け止めていきたいと思うこの頃です。

神学院スタッフ…恵みの想起

学苑だより

●入学審査が2月26日(月)に行われます。受験する方が備えられるようにお祈りください。
●卒業式は3月2日(金)午後1時30分開式です。3名の卒業生と1名の受講終了生を送り出します。
●創立70周年記念改修工事は第二期工事に入ります。本館屋根などの補修、旧オルガン棟、旧家族寮など不使用建屋の解体と、駐車場としての整地を計画しています。お祈りください。
●拡大メンテナンス委員会では、さらに今後のキャンパスを展望して提案の検討がなされています。本誌掲載の信徒委員からのご説明もお読みください。
●後援会では引き続き各教会の世話人のご推薦をお願いしています。お問い合せは中山会長まで。
●神学院祈り会は先月第50回を迎え、また新たなスタートをします。2月は6日(火)です。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。12月の会計報告をさせていただきます。

12月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による「神学院サポート献金」
¥724,095
教会団体による「神学院献金」
¥399,326
合計¥1,123,401
その他の献金(一時・特別)
¥180,440

・振替：00230-0-10138



公報

本部通達

「あなたがたは、あわてて出なくともよい。逃げるように去らなくともよい。主があなたがたの前に進み、イスラエルの神が、あなたがたのしんがりとなられるからだ。」(イザヤ五二・12)

1月末の大切な教会総会を越えて、各教会でも良き進歩がなされたことと存じます。新教会年度のすべての計画・方針・活動が、主に導かれ、主に守られ、主とともに歩む中で、キリストの大きい御業と栄光が拝される筈となります。この時期は、殊の外、寒さと雪との戦いが厳しくなっている北国・雪国の地域の諸教会を覚えて、主のみ助けをお祈りしましょう。

■本部

(会議)

《第21次総会・第73次年会 準備
祈禱会開催》

5日(月) 午後2時～3時半
(OCC411会議室)

5日(月)～6日(火)
拡大運営委員会(年会準備)

13日(火) 会計監査

《JHA関係》
11日(日) 遠州聖会

26日(月) 関東JHA評議員会

■総務局

(第73次年会の関連のお願い)
年会は3月5日(月) 午前11時

(必着) 6日(火) 正午までの開催となります。交通・宿泊は各自でご手配ください。本部で行われている最終的な準備のため、また先生方やご家族、信徒方の出入りのためにお祈りください。

▽近年「境内地・境内建物の登記簿謄本」の送付にご協力いただいておりますことを感謝申し上げます。

会堂建設等で提出後に変更のありました教会は、速やかに最新の登記簿謄本の提出をお願いします。本部にて、被包括法人の最新の状態を把握しておく必要がありますので、ご協力をお願いします。

▽教団ドメインのメールアドレス(@immanuel.or.jp)を使用の先生方で、新規登録や変更・廃止、メールアドレスの希望などがありましたら、総務局総務部までご連絡ください。

▽本部からの発送郵便物の集荷サービスの変更に伴い、これまで毎月末に各教会宛に発送してきた定期の本部便に同封できる印刷物は、各教会宛2～3枚までと致します。それを超えるチラシ等の郵送は各自で発送作業をお願い致します。

▽不明な点は総務局まで。

■世界宣教局
▽3月の総会、年会には代議員に選出された、平瀬義樹宣教師(台湾)、また年会には鹿島義喜宣教師、理香宣教師がそれぞれ出席の予定です。

▽葛田就子宣教師は6月頃、報告のため帰国し、7月から2019

年5月まで巡回奉仕にあたります。巡回希望は葛田就子師までご連絡ください。

▽ザンビアのジェンボクリニック(富澤香宣教師、根廻恵子宣教師)では宣教師館に電気が引かれ感謝しています。一日も早く、家庭ごとにメーターが取り付けられ、少しでも安定した電力供給が与えられるようにお祈りください。

■教育局

(ユースステーション関係)

今年8月13日(月)から16日(木)にかけて、第6回ユースステーション全国大会が開催されます。お祈りとご協力をお願いします。

(とにキャン関係)
▽とにキャン・フェスティバル
日程・3月30日(金)
会場・中目黒教会

◆全国中高生とにキャン
日程・8月14日(火)～17日(金)
会場・聖山高原キャンプ場
講師・川口竜太郎師(CTC)
代表スタッフ)
テーマ「The Goal、これが僕らの歩む道」

■聖言神学院
▽入学審査は2月26日(月)、願書提出期限は2月12日(月) 必着です。受験を考えておられる方は、間違いのないように手続きを行ってください。

▽神学院祈り会 2月6日(火) 午後6時～7時、本部会議室。

▽卒業式 3月2日(金) 午後1時30分開式。

▽B.T.C後援会から 各教会で「世話人」の推薦をお願い致します。

■出版事業部
▽昨年末に追加注文いただきました中型、大型聖書は今月納品される予定です。大型引照なしは4月となります。5月末までは各書発売記念特価となっておりますが、大型の再刷は5月、小型の再刷は6月となります。それまで注文は受けませんが、まとまった発送は再刷後となりますので、ご了承ください(中型は在庫あり)。

▽「聖書 新改訳2017」の語句訂正箇所については新日本聖書刊行会のホームページをご覧ください。

消息報告



▽12月28日、長谷美代子師(安食教会)が召天され、1月5日に告別式が執り行われました。

▽1月14日、江藤博久師(退任)が召天され、1月18日に告別式が執り行われました。

それぞれのご遺族の上に主の慰めをお祈りください。

▼山形教会(釣俊栄師)では12月24日のクリスマス礼拝を新会堂で守ることができました。

▼名古屋教会(内山勝師)では会堂の建て替えのため、教会用地として隣接地を取得されることになりました。解体工事、建設工事が順調に進むようお祈りください。

第21次総会・第73次年会 に向けて

総会・年会準備祈禱会

日時=2月5日(月)
午後2時～3時30分
会場=東京・御茶ノ水
OCC411会議室
説教 川嶋直行師

●第21次総会・全国大会・第73次年会スケジュール

●第21次総会 3月3日(土)
会場・OCC8Fチャペル
受付開始 12時
総会議事 13時～20時半

●全国大会 3月4日(日)
会場・市川市文化会館(JR本八幡駅から徒歩10分)
合同礼拝 10時半～12時半
青年大会 14時～16時

●第73次年会
会場・OCC8Fチャペル
▽3月5日(月)
10時 受付開始
11時～13時 年会議事Ⅰ(各自昼食)
14時半～16時半 年会議事Ⅱ(引退女性牧師を送る会)(各自夕食)

▽3月6日(火)
10時～11時 聖会Ⅱ
11時～12時 教職按手式
任命式

年会はすべてオープンですので、信徒の方もぜひご参加ください。教報PDFパスワードは4215